

○山本和代，小野文恵（高知県立療育福祉センター）
前田奈美，山田由子（国立高知病院）
伊藤三佐，下元文子（仁淀病院）

1. はじめに

臨床看護における看護婦の行動と責任について、志自岐は『看護婦が自分の判断に基づいて行動し、その責任をとる為には看護婦自らが倫理及び道徳に関する感性をみがき、専門職としての役割について認識を深める事が必要である』と述べている。日常ケア場面において看護者が、どのような点に注目しながら臨床判断をしているのかを把握する事は、臨床判断能力や、倫理的感受性を養うための、継続教育に役立てることが可能であると考えられる。

そこで私達は、日常ケア場面における看護者の臨床判断の実態についてを明らかにすることを目的として本研究に取り組んだ。今回は、臨床判断の倫理的側面に焦点をあてて報告する。

2. 研究方法

平成11年8月20日～8月31日まで、高知市及び近郊の国、公立病院に勤務する看護者236名を対象に質問紙による留置調査法を行った。調査内容は、個人属性及び日常ケア場面における看護者の臨床判断の内容を中西らの研究を参考に＜心身の状態＞＜病みの経過＞＜日常生活の状況＞＜サポートの状況＞＜将来の見通し＞＜患者の力＞＜看護者の力＞＜チームの力＞＜関係性＞＜ケアの選択＞の10カテゴリーに分類し、各カテゴリーには倫理的配慮を含むものとして、質問52項目とし、評定尺度法5段階でスコア化した。分析方法は、Excel97を用いて平均値を算出し行なった。

3. 結果及び考察

アンケート回収率86.4%、有効回答率71.6%。対象者の平均年齢37.98歳、平均経験年数16.1年である。

1)カテゴリー別

全カテゴリーの平均点は3.92である。カテゴリー別平均点の上位は、＜心身の状態＞＜ケアの選択＞＜関係性＞である。このことから看護者は、日常ケア場面においてまず基礎的データを判断している。また、相手の立場に立ってケアを選択し患者との信頼関係を築こうとしていることがわかる。

反対に平均点の下位は、＜患者の力＞＜サポートの状況＞＜チームの力＞である。このことから、日常ケア場面では患者自身が持っている力や周囲のサポートに関する判断を、あまり重要視していない傾向にあることがわかる。国際看護婦協会が、『看護婦は日常ケアする中で、倫理的問題に出会い、葛藤を感じても、それを表現し、同僚や他の職種の人々と話し合うことはないようだ』と報告してるように、日常ケアに関してチームとしての連携が弱く、チーム間での話し合いがスムーズ

にっていないことが予測される。澤田は『真に患者のためになるよきケアとは、看護ケアを決定する際の患者の参加を抜きには考えられぬ・・・』と述べているように看護者が、生活をしている患者の「個」に焦点を当てて深く洞察、〈患者の力〉にも着目しながら情報収集することが望まれる。また、判断をより多面的にするためには〈チームの力〉を活用し、〈サポートの状況〉をアセスメントすることが必要なのではないか。そのためには、申し送りなど病棟での毎日の情報交換の持ち方や、カンファレンスの内容の充実などが望まれる。

2)項目別

項目別の平均点の上位は、「日常ケアを行う時、患者さんの安全を大切に考えていますか」、「ベッドサイドで排泄をしている患者さんの排泄物は、気がついたら処理するよう心がけていますか」、「病室に入る時は、声かけをして入るよう心がけていますか」である。このことから看護者は、日常ケア場面において、患者の安全を第一に考え、また病院という環境の中で、できるだけ患者の羞恥心やプライバシーを守ろうとしていることがわかる。日本看護協会の看護婦の倫理規定の第1項目にも『看護婦は、人間の生命を尊重し、また、人間としての尊厳および権利を尊重する』とあるように、看護者は、対象の生命、人格、人権を尊重することを判断の基本としていると考える。

反対に平均点の下位は、「他のスタッフと、家族も含めて予後や治療方針について話し合いをしていますか」「専門的な知識獲得のため、学習するように努めていますか」「不眠や便秘の訴えに対して安易に薬剤に頼らず看護ケアの介入を心がけていますか」である。このことから、患者の将来に向けてチームで取り組むときに、患者の日常生活の側面も含めて関わる姿勢や、日常ケアに関する問題解決の看護介入が弱い傾向であることがわかる。また、活動・睡眠・清潔・排泄など日常ケアに関しては、学校卒業後に知識獲得の場が少ないことが予測される。患者の生活パターンは個人によって違うもので、価値観が多様化して来ている現代において、日常ケアの内容をより充実させるためには、原則を学習するだけでなく、いかに応用するのかなどの情報交換を積極的に行うことが重要になってくる。

4.まとめ

今回、日常ケアにおける看護者の臨床判断の実態について調査し、臨床判断の中でも倫理的側面について以下のことが明らかになった。

- 1)看護者は、患者の基礎的データ及び生命・人格・人権を尊重することを判断の基本とし、患者の安全を第一に考えている。
- 2)看護者は、患者の力を引き出し、患者の将来に向けてチームで取り組む姿勢や問題解決に対する看護介入が弱い傾向にある。

今後、看護者の質の向上と、専門職としての役割を果たすための継続教育にこの結果を反映させていきたいと考える。